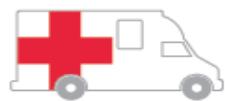


【活動のご報告】

ハリケーン・サンディによる被害に対する支援 (米国)



米国赤十字社はハリケーン・サンディの被害にあつた **12 州、ワシントン DC、プエルトリコ** の被災地で救援活動を実施



300 台以上の救急車
両を活用



避難所で **7 万 4000 泊**
分の宿泊を提供



1,750 万食以上の食
事や軽食を提供



700 万以上の救援
物資を提供



11 万 3000 件の健康、
こころのケア相談に
対応



1 万 7000 人以上の
スタッフとボランティアが活動

● 米国におけるハリケーン・サンディの被害の概要

2012年10月29日、ハリケーン・サンディが大西洋岸を縦断、アメリカ東部のニュージャージー州に上陸し、大都市であるニューヨークを直撃しました。アメリカ北東部で史上最大級のハリケーンとなり、110人が死亡、一時は11州で850万人が停電被害を受けました。



ニュージャージー州では、高潮により道路、住居が浸水し、倒木、沿岸沿いの停電などの被害も生じました。同州のアトランティック・シティは市内の80%が浸水し、浸水により取り残された2万人が州軍により救助されました。

ニューヨークでは、100万人が停電被害を受け、何千人の高齢者などが高層住宅に取り残されました。マンハッタンでは、車が水に浮かびトンネルも浸水、地下鉄の運行も停止し、一時的に都市機能が麻痺しました。

また、直接的に深刻な被害を受けた上記2州以外にも、ハリケーンによる強風の影響で、コネチカット州、ウェストバージニア州、およびメリーランド州も被害を受けました。

■ 米国赤十字社の支援

【緊急救援】

米国赤十字社（以下米赤）は、ハリケーン・サンディ上陸前から人々に準備を呼びかけ、避難所開設の準備、ボランティアスタッフの配備や救援物資の準備などを進めてきました。

ハリケーン上陸後、米赤は直ちに各地で避難所や食糧配給所を開設し、平時より訓練を受けている1万4400人以上のボランティアとともに、以下の支援を届けました。

- 避難所を開設、のべ7万4000泊分の宿泊環境を提供
- 1750万食分の食事、軽食の提供
- 700万以上の救援物資の配布
- 300台以上の緊急対応車両を稼働、食糧や生活必需



米赤は避難所を開設、安全で暖かい宿泊環境を提供しました。

品を配布

- 11万3000件の健康、こころのケア相談

米赤のボランティアは、使用不能な道路、橋、トンネルなどで人びとの誘導を行ったり、被災した世帯を戸別訪問し、ニーズを聞き取りながら支援物資を届けました。また、大切な人を亡くした人々へのこころのケアにも力を入れました。

この他、20人の経験豊富な米赤の防災通信ボランティアが、ハリケーン上陸前には災害への備えについて、また上陸後は避難所や食糧配布場所等の情報を被災者に発信し続けました。

ボランティアが運ぶ支援と希望

ハリケーン・サンディ通過後の数日間は、氷点下の中、広範囲で停電が続きました。

3メートルの高潮が押し寄せたロングアイランド（NY市を含む、NY州南東部の島）のリドビーチでは、停電した高層住宅に住む多くの高齢者が支援を必要としていました。米赤の救援チームは、二人一組で各戸を訪問し、全ての世帯に食糧、水、毛布その他の支援物資を届けました。

また、リドビーチでの活動時、近くの老人施設も停電していることが判明。米赤ボランティアは直ちに毛布、温かい食糧などを車に満載し、施設を訪問。停電のため、メディアから被害の全貌を知ることもできず、不安の中過ごしていたため、赤十字ボランティアが訪れたとき、多くの入居者が泣き崩れたといいます。ボランティアは一人ひとりの不安に寄り添い、これからも支援の手が届く旨を約束しました。



緊急対応車両で食糧や生活必需品を必要とする人に配布しました

【復興支援】

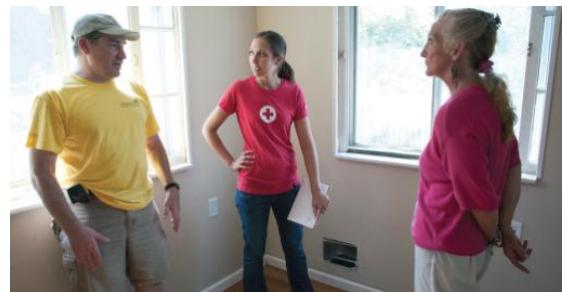
2012年末には緊急救援活動はほぼ終了し、赤十字の避難所も閉鎖。多くの人は通常の生活戻っていましたが、まだ数千人がホテルや仮設住宅で暮らしていたため、特に被害が大きかった地域では、冬の間も毎日約8万食の食糧の支援を継続しました。

住宅の修復や再建は、個々のニーズが多様であったため、米赤のケースマネージャーが

一人ひとりの相談に乗り、個別のニーズに合った支援を届けました。

被災後数か月たっても家屋の修復が進まない世帯に対しては、他団体と協力し、住宅内の汚泥やがれきの撤去作業を行いました。

また、仮住まいから恒久住宅への移行に際しては、赤十字のケースワーカーが転居先と一緒に探したり、家の修繕・再建等のために受けられる各種支援を紹介するほか、「赤十字住宅入居支援プログラム」を通じ、約 2800 世帯に対して、家屋の修繕、引っ越し費用、家具等の購入などの費用を支援しました。



赤十字の助成金を利用して家の修繕を行います
赤十字の助成金を利用して家の修繕を行います

- 毎日 8 万食分の食事の提供
- ボランティアを通じた汚泥、がれきの撤去
- 2800 世帯への、恒久住宅への入居のための各種支援（1500 万ドル）

米赤は、直接実施した上記支援のほかにも、家屋の修復や被災者への財政支援などに取り組む他団体にも助成金を交付し、広範囲な支援を展開しました。

- 生活再建支援を行う他団体への支援（43 案件、5500 万ドル）

■ 日本赤十字社の支援

日本赤十字社は、皆さまからお寄せいただいた8千 200 万円以上の救援金の全額を米赤に送金し、米赤が行う上記救援事業を支援しました。

- 日本赤十字社への救援金総額 82,069,728 円

■ 米国赤十字社の救援金の用途

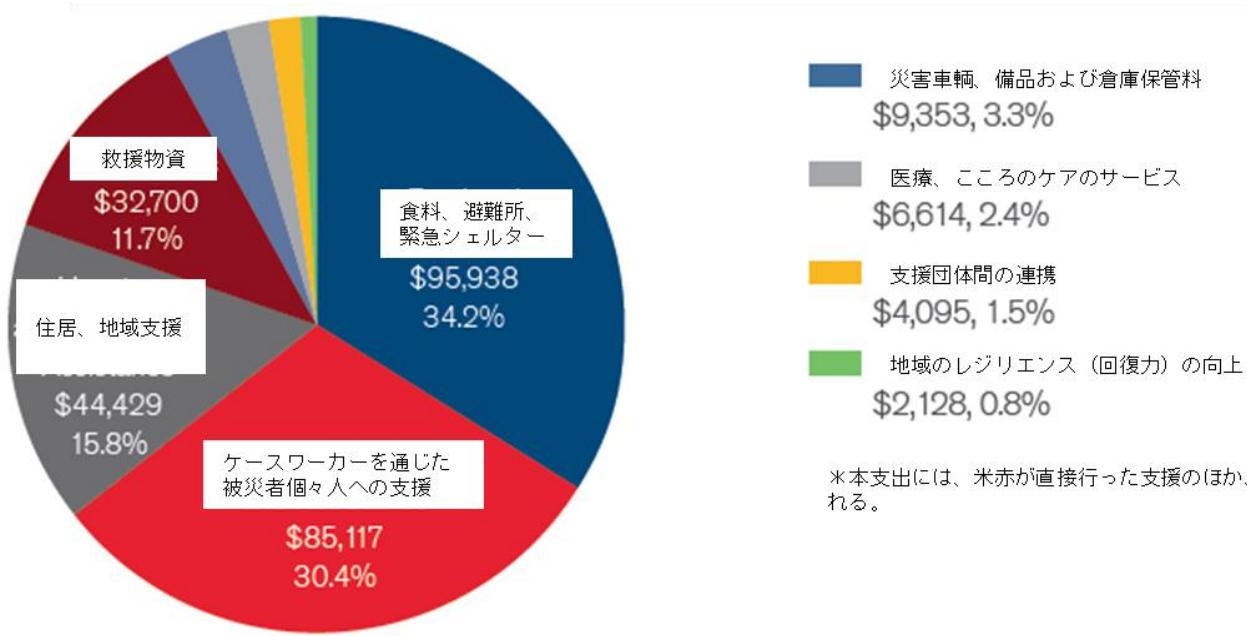
ハリケーン・サンディから 1 年で、米赤は、308 万ドルの寄付のうちの9割以上にあたる 280 万ドルを、緊急救援、復興支援プログラムに活用しました。

残りの資金は住居関連の支援を中心に使われています。また、災害に対する、コミュニティのレジリエンス（回復力）の向上や、被災者支援に取り組む他の NGO などへの助成金交付にも充てられます。

米国赤十字社 ハリケーン・サンディ支出総額*

2012年10月～2013年9月30日 - \$280百万ドル(2013年レート:約270億円)

(単位:千ドル)



*本支出には、米赤が直接行った支援のほか、他団体への支援も含まれる。

食料および緊急シェルター（避難所等）

米赤はハリケーン・サンディの上陸前、中、後と、避難所の開設などを通じて、人々に安全なシェルターを提供。避難所で食糧の配付を行ったのみならず、災害対応車両で炊き出しを行ったほか、地域の食糧配布拠点でも食糧を提供した。

ケースワーカーを通じた、被災者個々人への支援

米赤のケースワーカーが被災者の個別のニーズを聞き取り、一人一人の生活再建のための支援を計画、実施した。

食糧、衣料、家具、引っ越し費用、敷金、の支援などが含まれる。

住居および地域支援

深刻な被害を受けた住居に対し、修繕部品の提供、カビの除去、電化製品の支援、瓦礫撤去のボランティアの派遣、再建資金の援助等を行った。

救援物資

歯ブラシ等の衛生用品、懐中電灯、ごみ袋、防寒具（手袋、毛布等）、シャベル等の救援物資を提供した。

災害対応車両、倉庫備蓄

米赤は食糧や水、救援物資の配給のため、緊急対応用の車両300台のほか、レンタカー、トラックなどを活用。倉庫備蓄費、燃料費等の費用もここに含まれる。

医療救護、こころのケアサービス費

医療救護、こころのケアの提供のほか、処方薬の提供等。

関係機関との連携

米赤は、全米災害ボランティア機構(VOAD) や他の関係機関に助成金を交付、多方面から被災者の復興を支援。

地域のレジリエンス（回復力）強化

今後の災害に対する地域の対応能力の強化のため、緊急物資の備蓄、関係機関との会合、避難訓練等を実施。

～みなさまのご支援、心から感謝申し上げます～

日本赤十字社による国際支援活動に関するその他情報は日赤ホームページをご覧ください
(<http://www.jrc.or.jp>)